



MONTHLY

れんごう

北海道

2011.10.5

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

No. 213

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者 村田 仁

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

「2011平和行動in根室」開催 「願う」平和から「叶える」平和へ。つながろうNIPPON

9月10日から11日の2日間にわたり「2011平和行動in根室」が開催され、『「願う」平和から「叶える」平和へ。つながろうNIPPON』のスローガンのもと、全国から多くの仲間が参加した。

10日、今回が初めてとなる「北方領土の返還を求めるシンポジウム」が開催され550名が参加した。第一部基調講演として元島民の得能宏氏が熱くふるさとへの思いを語った。第二部のパネルディスカッションではパネリストそれぞれの立場から、島民の思い、島の現状、ビザなし交流等について語られた。引き続き学習会として、各セミナーに分かれより詳しく北方四島の現状と問題点について学んだ。

11日、納沙布岬・望郷の岬公園において、「2011平和ノサップ集会」が開催され1000名を超える仲間が集結した。

主催者挨拶にたった連合南雲弘行事務局長は、領土問題が具体的進展がない現況について「日本政府は、元島民が平均年齢77.8歳という高齢化が進む中、日本固有の領土である北方四島の一括返還を一日も早く実現し、日ロ平和条約を締結するため、一日も早く政治の混乱を回避し、交渉に臨む基盤を整えるべきであり、野田政権にも強く推進してもらいたい。」と強く述べた。

更にビザなし交流については「相互理解は進んだが、



納沙布岬から見る北方領土

より進展させるため、日程も長期滞在とし、戦略的かつ心が通い合う交流にすべき」とし、島に現存する日本家屋については「日本の社会があった友好の象徴であり、保存は重要である」と語った。

続いて地元を代表し挨拶にたった連合北海道工藤和男会長代行は、冒頭、地元で運動の推進に尽力されている方々に感謝の意を述べ、「国会議員による北方領土視察団が、四島返還運動に対する勉強不足と、時としてその無知な言動により地元住民関係者の思いを傷つけたり、批判等を受けるということが残念ながら起きています。やはり政府と国会議員が活発な外交交渉を推し進めていこうとする覚悟を国民に示すべき。」とし、「全国で一所懸命活動されている皆さんと共に手をつなぎ、一歩でも半歩でも前進させることを誓う」と決意を表明した。

集会では、元島民の訴えや特別報告等がなされ、平和リレーでは平和4行動スタートの地沖縄へ、連合北海道工藤会長代行より、連合沖縄比嘉勝太副会長へピースフラッグが渡された。最後に、地元釧根地協佐藤久夫会長が四島一括返還を願って力強い団結ガンパローで締めくくった。

連合北海道は、今後も北方四島の一括返還が実現するまで、北方領土返還運動に粘り強く取り組んでいく。

〈この記事のアドレス〉 http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2011091001_nemuro-peacein.html



第2期ユニオンスクール渡島開催

第3回学習会兼閉校式

第2期ユニオンスクール渡島・第3回学習会兼閉校式が9月10日(土)13:00より、函館パークホテルにおいて開催された。

連合北海道組織対策局・皆川次長を講師に招き開催された今回の学習会のテーマは「模擬団体交渉」。第1期と同様に、連合渡島地協四役が会社側を演じ、受講生が労働組合役員として課題の解決に向けるもので、今回の設定は会社経営不振に伴う函館工場の閉鎖とし、労働組合を無視して社員全員に閉鎖案内が配布されたことを前提とした団体交渉申し入れからスタートした。

前段は、労組及び会社側が其々に打合せをし、団体交渉申し入れ書の手交から始まったが、意地悪役に徹した役員に、入口からの門前払いに、不慣れな組合役員が言葉に詰まる場面も。

何とか開催された団体交渉は、文字通りの真剣勝負としてのバトルが展開されたが労働運動の経験豊富な役員(会社側)の悪質な対応(?)に、労働組合側(受講生)がタジタジになる場面も数多く見られ。受講生側は交代しつつ何とか白紙撤回を求めるものの最後まで前進をみることはなかった。

途中、組合役員に馴れ馴れしく呼び掛けたり、労働組合の存在を否定したり、社長と組合委員長とのロビー会談を持ちかけたり、発奮させる仕掛けを折々に取り混ぜたものの、気がつかず流されたりと、ハプニングも数多く



見られた。

終了後には、荒木連合会長・皆川次長から講評をして頂き、常に組合員が後ろに居ることを意識し、今後の組合活動に積極的に役立ててほしいことを告げ、修了証を一人一人に手渡して閉校式を終えた。

大綱的な受講生の感想は次の通り

- 非常に参考となった、今後の活動に十分に生かしたい。
- 3回の学習会が楽しく、時間が短いとさえ感じた。
- 閉校後に1期生同様に、フォローアップ研修を是非開催してほしい。
- 団体交渉の難しさと重要性について十分に理解した。今後、団体交渉においては積極的に発言を行っていききたい。
- 法律等に関わる課題になれば如何に勉強不足かを痛感させられた。
- 次の若い人材を積極的に次回以降参加させていきたい。
- 会社側を演じた役員に、腹立ちさえ覚える程、真剣になれた。

学習会終了後に行われた修了交流会は、極度の緊張から解放された解放感も手伝って和気藹藹の中で行われた。

よほど、模擬団交の印象が強かったのか、節々において団交中の出来ごとを取り上げて爆笑の渦が起こったり、現実的な悩みを話し合ったりと、楽しい雰囲気の中で終始。

5月・7月・9月と各4時間の計12時間に渡る第2期ユニオンスクール渡島を無事終えることとなった。

〈この記事のアドレス〉 http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2011091002_uschool_oshima.html

ユニオンスクール渡島 フォローアップ研修

第1期受講者を対象に演習など実施

昨年2月20日に開校したユニオンスクール渡島は、3回の受講を経て、昨年8月に第1期16名が卒業したが、この第1期受講者を対象としたフォローアップ研修を8月27日(土)に開催した。

冒頭、ユニオンスクール渡島の校長である荒木会長より、フォローアップ研修の目的を説明のうえ、受講したことを日常的活動に活かして欲しいと要請し、連合

北海道より講師として迎えた皆川組織対策局次長にバトンタッチした。

マーブルチョコレートを使った、オリジナル手品?でスタートした講義は、第1期受講者も経験済みの「ユニオンかるた」のニューバージョンで軽く頭を回転させ、明らかに前回よりもスピーディに完了した姿に進歩を感じる一方で、受講者からは感激や達成感が薄れたようだった。

引き続き、「経営分析」について非常にシンプルで分かりやすい資料をもとに会社の経営状況を判断するための財務諸表の見方について講演を受けた。

これは、経営側の主張を鵜呑みにしないで、組合自らが経営分析し、判断するための知識を習得するために受講者側から要望の多かった講座。しかし、会社側が財務諸表を組合側に提示しない実態や組合側がどこまで経営に対して意見を述べるのが現実的に可能なか等、必要な知識ではあるものの、万能ではなく、この分析結果の使い方も慎重に行うべきとアドバイスを受けた。

最後に「職場の問題解決とコミュニケーション」と題した演習では、「社長・課長・担当者」という編成のチームで文書のみでコミュニケーションをとり、社長の指示により全員で目的を達成するゲーム形式のもの。全体のことを考えながら的確な指示を出す社長、社長と担当者間で調整役となる課長、ただ指示を待つだけではなく担当者としての意見を課長を通じて社長に伝える努力も重要な担当者。誰が重要かではなく、それぞれの立場で全体のことを常に考えながら進めていかないとバラバラになってしまう実社会にも似たゲーム。伝達文書の中には「末端から揃えるべきでしょ！あんたは最後！」と社長に対する抗議もあ

り、「委員長・分会長・一般組合員」に仮定したゲームとしても、それぞれの個性が表れるゲームかもしれない。

2人の社長役はグッタリ疲れた様子だったが、この後の交流会では、すっかり酒の肴になったのは言うまでもない。

現在、第2期の受講生も最終講座を残すだけの状況だが、第3期以降も毎年開校していくことやフォローアップ研修を一度は行うことをセットに継続していきたい。

〈この記事のアドレス〉 http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2011082701_u-school_oshima.html



民主党の新代表に期待する事務局長談話

事務局長 村田 仁

1. 本日、菅直人首相の退陣に伴う後継を選ぶ代表選挙が民主党両院議員総会で行われ、決戦投票のすえ野田佳彦氏が新代表に選出された。代表選前段では5候補の陣営が決戦投票をにらんで多数派工作がぎりぎりまで展開されたが、代表選後はともに力をあわせて党運営にあたり、民主党の挙党体制を築き国内外の難局に立ち向かい、引き続き「国民の生活が第一。」の原点に立脚した政権運営を行うことを強く期待する。

2. 2009年秋、歴史的な政権交代してから2年、この間、鳩山政権では政治とカネ、安全保障問題でつまずき、それを引き継いだ菅政権も統治機能を失う形で退陣に追い込まれ、野田新代表は政権交代から3代目の総理大臣となるが、国会が国民の生命と財産を守り、国の安定と発展のために政策を決定する場であることを改めて認識し、国民・有権者の政治への信頼回復に努めていただきたい。

3. その上で、野田新代表・総理には、国難と衆参ねじれ状況を乗り越える国政のリーダーシップを發揮していただき、東日本大震災からの復旧・復興対策、

福島第一原発事故の収束・対策はもとより、超円高で景気失速も懸念される中で、震災復興が日本経済再生のきっかけをつくる創造的復興となるよう、スピード感をもって国政の舵取りにあたってもらいたい。

4. 経済の停滞、デフレ、少子高齢社会の急激な進展に復興・再生と、今ほど政治の果たすべき責任が問われている時はない。連合北海道は、勤労者・生活者の雇用と暮らしを重視する政治を実現するために、政権交代可能な二大政党体制の確立をめざし、政権交代を実現させてきた。我々が期待するのは、連合の理念と政策の実現である。

いずれにしても政府及び民主党には、国民のおかれている厳しい現実を率直に受け止め、この2年間の自らの軌跡を総括する中で、政権戦略の再確立、経済の再生と国民生活の安定にむけ全力を挙げてもらいたい。連合北海道としても「希望と安心の社会づくり」にむけ、今後も民主党政権への支援と連携を強化していく。

以上

〈この記事のアドレス〉 http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/danwa/2011082902_newreader-minsyu.html

道主催プルサーマルシンポジウムにおける北海道電力の「やらせ」メール問題についての事務局長談話

事務局長 村田 仁

1. 北海道電力(株)は8月26日、2008年10月に道と泊発電所周辺4か町村が開催した「プルサーマル計画に関する公開シンポジウム」において、シンポジウムに参加して賛成の意見を述べるよう促すメールを社員に送っていたことを認め、記者会見の席で謝罪した。

このような行為は、泊発電所3号機のプルサーマル計画に関し、道や岩宇4か町村が地元自治体の責任において、公正な理解や判断のための材料を道民や地域住民に提供するというシンポジウムの趣旨を歪めるものであり、極めて残念であり遺憾である。

2. プルサーマル計画と核燃料サイクル計画について連合北海道は、2007年から2008年にかけて行われたエネルギー・環境政策委員会における論議に際して、予断を持たずに、推進・慎重双方の見解や知見を踏まえて報告をまとめ、その上で道の最終的な判断を注視してきた経過がある。

賛成意見を促すメールが問題となったシンポジウムは、道が翌年、泊3号機のプルサーマル計画受け入れを判断する際の根拠の一つとされている。行政が住民の意思を正しく押し量ることが出来ずに判断したとなれば、その合理性が問われることになる。今回の問題で北海道電力は、プルサーマル計画に関する道知事の判断を容認した道民の信頼を損なうこ

とになり、知事が北海道電力に対して「今後慎重かつ詳細な調査を早急に実施するよう求める」とするのは当然である。

3. 連合北海道は、プルサーマル計画の是非にかかわらず、原子力発電所が道民の理解に基づき稼働しうる基本条件は、「安全確保を大前提に情報公開、環境監視、防災対策を強化する」ことであると考えており、事業者に対してはそれを履行する誠実な姿勢と的確な行動を求めてきた。

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、国の原子力規制行政や発電事業者の安全対策について大きく見直しを迫るものである。北海道電力も含めて、まさに襟を正すことから始めなければ、道民や地元自治体の理解と協力を得ることは難しい。

今後、北海道電力には、泊3号機のプルサーマル計画をはじめ、定期点検中の1号機・2号機の再稼働など原子力発電に関する道民の不安や疑問に真摯に応え、不信の解消と信頼回復に全力をあげる必要がある。また、道においても、新エネルギーや自然エネルギーなど多様なエネルギーの普及を期待する道民・利用者の声を受け止め、積極的な施策を講ずるよう要望する。

以上

〈この記事のアドレス〉 http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/danwa/2011082901_yarasemail.html



10月の主な動き

- 医療シンポジウム
1日(土) 13:30/グランドホテル
- 宗谷地協ユニオンアカデミー
1日(土) 14:30/稚内市
- 地方連合会代表者会議
3日(月) 14:00/総評会館
- 連合第12回定期大会
4日(火) 9:00/東京国際フォーラム
- 最賃改定周知街宣
4日(火) 12:00/札幌駅前
- 労働相談ダイヤル
5日(水) 10:00 ~7日(金) /連合北海道
- 連合北海道エネルギー・環境政策委員会
8日(土) 13:00/さっぽろ芸文館
- 常駐者会議
12日(水) 10:00/連合北海道会議室
- 第13回執行委員会
13日(木) 10:30/連合北海道会議室
- 第11回地協事務局長会議
14日(金) 13:30/連合北海道会議室

イベントカレンダー

- コミュニケーションカアップセミナー
15日(土) 13:00/NTTセミナーセンター
- 「食・みどり・水を守る道民の会」育樹祭
16日(日) 8:30/支笏湖
- 第1回執行委員会
20日(木) 13:00/さっぽろ芸文館
- 第3回ボランティア講座
22日(土) 10:00/自治労会館
- 日高地協ユニオンアカデミー
22日(土) 13:30/新ひだか町
- 連合第1回中央執行委員会
27日(木) 13:30/総評会館
- 2011連合中央女性集会
28日(木) 10:30/よみうりホール

連合北海道第24回定期大会

- と き 2011年10月19日(水) 10時~20日(木) 12時
- と ころ さっぽろ芸文館3階「ロイヤルホール」